

国際標準化教育に関する動向報告 Status report on Education about Standardization

黒川 利明 鈴木 勝博 中西 浩 松本 充司

Toshiaki KUROKAWA Katsuhiko SUZUKI Hiroshi NAKANISHI Mitsuji MATSUMOTO

電子情報通信学会国際標準化教育検討委員会 Working Group for Studying Education about Standardization, The
Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

E-mail: toshiakikr@gmail.com, kh.suzuki@aoni.waseda.jp, nakanishi@idiscp.osaka-u.ac.jp mmatsumoto@waseda.jp

1. はじめに

電子情報通信学会の規格調査会に2012年9月に設けられた国際標準化教育検討委員会（委員長 松本充司早稲田大学教授）は、国際標準化に関わる教育・人材育成に関する課題を検討・支援することを旨として活動してきている。

2. 活動の概要

本委員会の活動は、2013年4月25日に京都大学で開かれた Joint ITU-IEICE-CTIF-GISFI Workshop on Education about Standardization[1]において発表されており、また、6月の画像電子学会年次大会においてもすでに発表されている。[2]

研究会そのものは、2012年9月25日に開かれた第1回を皮切りに、12月、2013年2月、4月、5月、7月、9月、10月、11月と9回行われており、10回目は2014年1月の予定となっている。

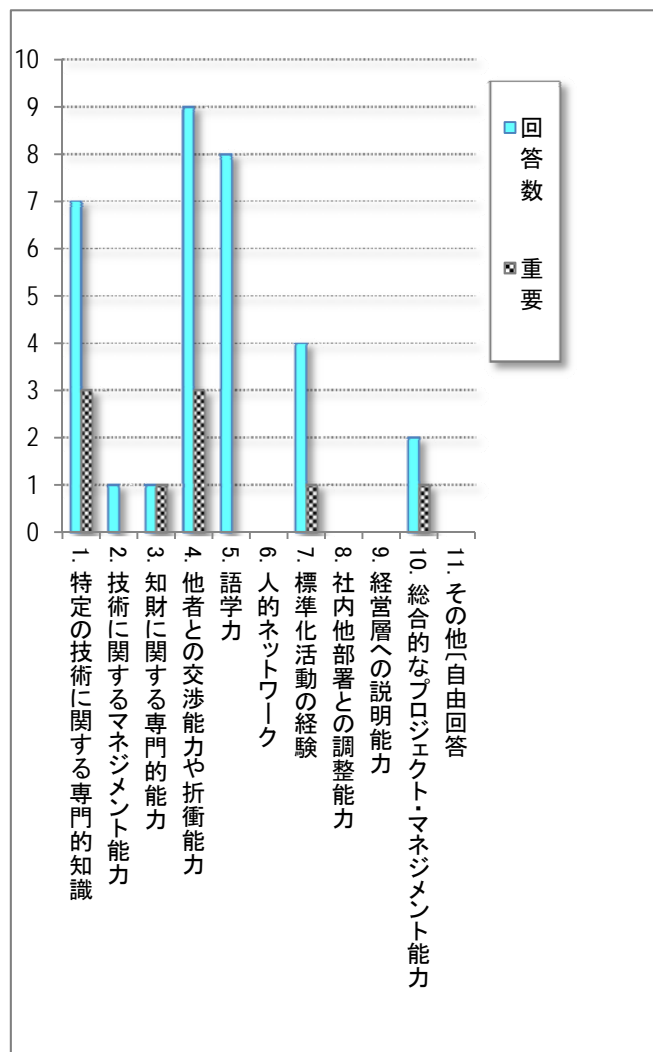
発足の当初の議題は、「カレイドスコープ特別セッション「標準化と教育」のプログラム案の検討」と「標準化教育に関するアンケート調査項目のリストアップ」であり、アンケートとカレイドスコープ・ワークショップという両テーマは、この委員会の基本的なテーマとして今日に至っている。

その他の話題としては、「オンライン講習会」、「電子情報通信学会全国大会での企画セッション」、「経済産業省の「戦略的国際標準化加速事業」への公募」などがある。

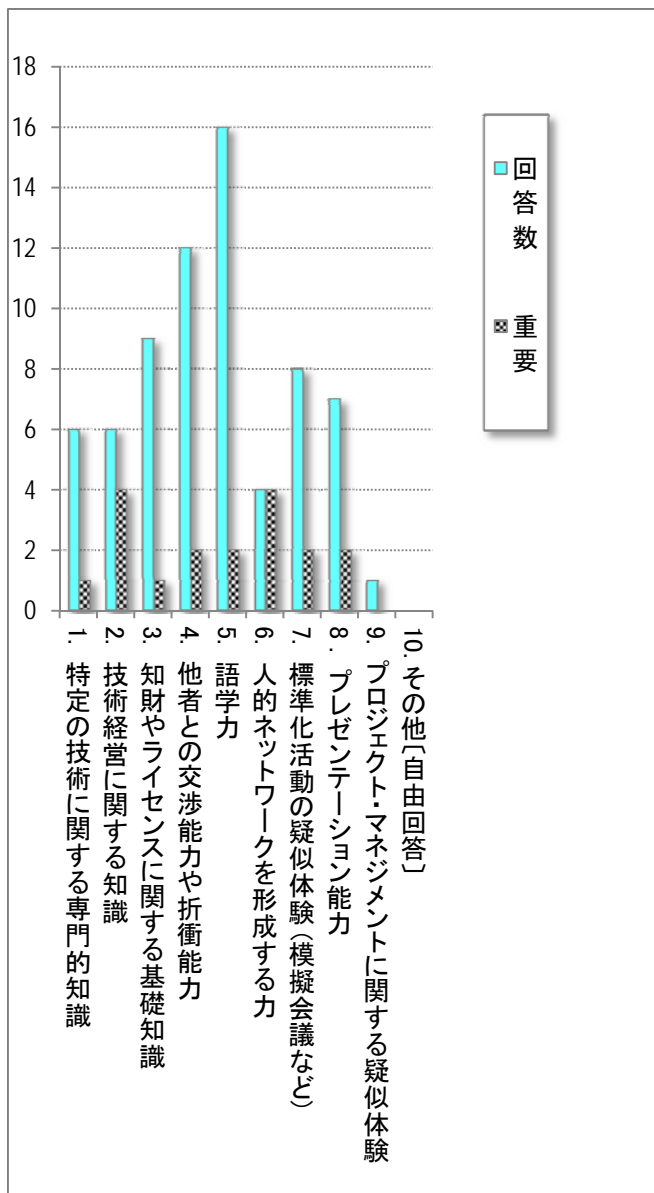
3 アンケート

すでに6月の報告[2]でも示されているが、企業や大学へのアンケートを実施しており、6月にも次のような結果を報告した。

(i) 大学での関心事の場合



(ii) 企業での関心事の場合



このアンケート結果について、アンケートを出された企業関係者がどのように思っているか、さらには、次のような項目について、どう考えておられるのかという情報を収集するために、インタビューを実施中である。

4. まとめ

国際標準化に資する人材育成については、国際的な活動が新興国を中心に盛んになってきていると同時に、日本も含めた先進国では、人材の高齢化や活動継続のための支援の問題など、新たな課題が出てきている。

本委員会の活動は、カレイドスコープなどの国際的なものと、アンケートなど国内の基礎固めのものと、いずれも今後とも重要な役割を果たすものである。

なお、今後の活動について、企業トップへの国際標準化取組強化の働きかけ、の取組や、多様な産業分野

の国際標準化の取組と経済効果に関する分析が必要と思われる。

謝辞

電子情報通信学会国際標準化教育検討委員会のメンバーに改めて謝意を表したい。

文献

- [1] Joint ITU-IEICE-CTIF-GISFI Workshop on Education about Standardization <http://www.itu.int/en/ITU-T/academia/kaleidoscope/2013/Pages/Joint-ITU-IEICE-CTIF-GISFI-Worshop-on-Education-about-Standardization.aspx>
- [2] 松本充司、電子情報通信学会 国際標準化教育検討委員会の活動、画像電子学会 2013 年年次大会、2013 年 6 月